大浦﨑収容所の戦没者遺骨情報提供のお願い

昭和20年６月下旬に、名護市大浦﨑に民間人収容所が設けられ、本部町、今帰仁村及び伊江村の住民を中心に多くの方々が収容されました。

沖縄県では、収容所で亡くなられた方のうち、まだ遺骨が収容できていない方について情報を収集しております。情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、情報をお寄せ下さるようお願い致します。

お問い合わせ　沖縄県　子ども生活福祉部平和援護・男女参画課 ☎866-2500

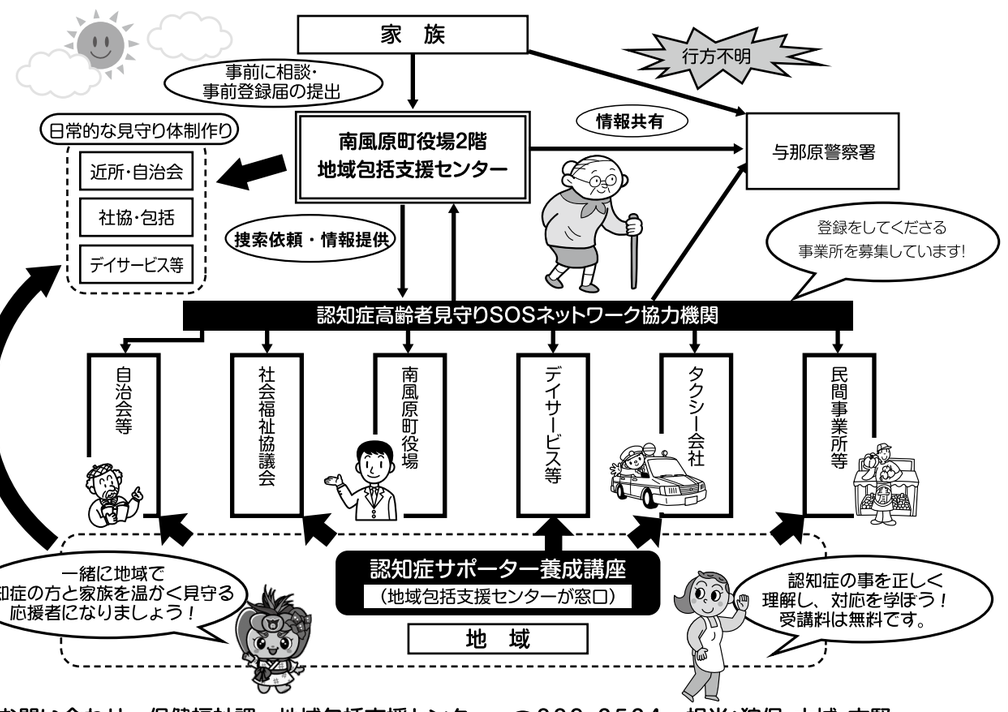
南風原町認知症高齢者見守りSOSネットワークを立ち上げました!

保健福祉課 地域包括支援センターでは、道に迷い家に帰れなくなるおそれのある高齢者を事前に把握し、緊急時に協力機関と連携して早期発見・保護に繋げる仕組み作りを始めました。

認知症の高齢者が安心して暮らしていくためには、地域の方の日常的な見守りや声かけはとても重要です。

地域包括支援センターでは、認知症について勉強し、地域で認知症の方やご家族を支える「認知症サポーター養成講座」も行っております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

南風原町認知症高齢者見守りSOSネットワーク　イメージ図



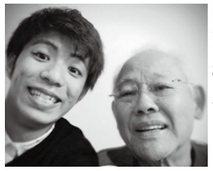
お問い合わせ　保健福祉課　地域包括支援センター　☎889-3534　担当：狩俣・大城・古堅

Forever Communication
株式会社 松樹
MATSUKI 沖縄県知事免許(6)第2709号
南風原支店
一括即金買い取り
最短即日で現金買取致します。
平成27年12月31日まで　詳細は各店舗へお問い合わせ下さい。
☎(098)888-3300 土・日・祝日も夜8時まで営業!!
不動産売却をお考えの皆様、又はあなた様の身近で
不動産売却を検討されている方をご紹介下さい。
ご紹介頂いたあなた様に最大で
10万円プレゼント!

平成27年 青年海外派遣事業研修報告
（南米　ブラジル・アルゼンチン・ペルー）
沖縄のつながり・ユイマールの姿

第3期　内間　龍一（19歳）

私は2015年11月20日～12月22日の約1ヶ月間、兼城凛子さんと一緒に南風原町青年海外派遣事業に参加しました。私はこの1ヶ月の間ブラジル、アルゼンチン、ペルーをまわり、南米で暮らす南風原人と交流をして来ました。交流を通して南風原人が南米でどのように暮らしてるのかをこの目で見てきました。



はじめにブラジルのサンパウロで南風原町人会長である城間エンリケさん（津嘉山）という方のお家にホームステイさせていただきました。エンリケさんは日本語が少し喋れるのですが、その中でも車に乗るときに、私たちに「りかりか」という言葉をよく使います！私は遠い国で日本語や方言が日常で使われてる事がとても新鮮でした。また過去に南風原に研修した研修生たちと交流をしました。研修生のみんなが日本語が話せることにとても驚きました。3世、4世である研修生は生まれも育ちもブラジルであるが、南風原の研修のあと日本語を勉強するようになったとみんな話してました。南風原の研修が研修生にとっては刺激になっていることがわかりました。

またサンパウロには南風原人が社長を務めるPANCOに工場見学しました。工場はとても大きく社員が約7千人おり、私たちがいった工場だけでも750名もいて、ブラジルで南風原人が頑張ってる姿をこの目で見ることができました。

ブライアグランデでは、大城房子さん（照屋）という方のお家にホームステイしました。房子さんのお家に着くと同時にとても上手な日本語で「遠いところからよく来たね～！」と出迎えてくれました。房子さんは日本語と方言、ポルトガル語を話せるので、その3つの言葉をチャンプルーして話すので最初はとても聞き取れませんでした。

房子さんは「方言は沖縄の象徴であるから、若い人たちが方言失くさないようにしないと」と私に話してくれました。沖縄で方言に危機感など持っていませんでしたが、このブラジルで私たちよりも自分のルーツを誇りを持ち、危機感を覚えてることを目で見て、自分の沖縄や南風原に対して何も知らないことを実感させられました。

また、房子さんは週末自分でお店を出しています。そこで焼きそばや天ぷらを売ってるのですがとても大きくてとても美味しかったです。お店もとても繁盛していました。

次にアルゼンチンのブエノスアイレスに行きました。アルゼンチンでは研修生のみんなが私たちのためにスケジュールやホームステイも計画してくれました。ホームステイ先の元南風原の研修生メリッサさんのお家では一緒に三線をひいたり、料理もそばなどを出してくれて、ここでも沖縄を感じることができました。また1つのホームステイ先であるフェデリコさんのお家では、フェデリコさんが日本食のお店で働いているので、朝食にいつも味噌汁や炒め物を作ってくれとても美味しかったです。フェデリコさんは将来日本食のお店を開きたいと言っていました。自分のルーツに誇りをもってることをとても感じました。また、アルゼンチンでは南風原人の方々だけではなく、他の村人会や町人会の人たちとも交流ができ、沖縄の繋がりを快く歓迎してくれる姿はまさしくユイマールの姿がここにもありました。ご飯を食べたり、盆踊りを一緒にやったり楽しく交流できました。

12月5日には沖縄フェスティバルに参加しました。町人会の太鼓や、三線講座、盆踊りなど様々なブースがあり盛り上がっていました。アルゼンチンで沖縄の人たちが集まる場所があることが嬉しかったです。

最後はペルーのリマを訪ねました。町人会長である大城ルイスさん（津嘉山）が経営しているCHIOに毎朝朝食をとらせていただきましたが、料理も美味しく繁盛していました。ルイスさんはここ以外に3つも会社を経営しています。また儀保幸子さんもお店をやっていて沖縄そばやゴーヤちゃんぶるなど美味しい沖縄料理を出しています。南風原人がこの現地で頑張ってるのがとても感じとれました。またペルーは町人会が少ないこともあり、南風原以外の若い研修生と交流する機会がとても多かったです。「キムタカ」さんが私たちのためにミニゲームやご飯をセッティングしてくれたり、また一緒にデパートにいったりカラオケに行ったりと色々歓迎してくれました。南風原の研修ではありますがこのように私たちを快く受け入れてくれるおかげでたくさんの交流ができ本当に嬉しかったです。

この研修を通して、3カ国全てで南風原人がその国々でルーツを大切にしてお店を出したり、日本食のお店で働いたりと頑張ってる姿が見れました。行く前には南風原人がどのように過ごしてるかわからなかったが生活に入り込み一緒にいることで知ることができました。

また今回3世4世の若い研修生との交流が多く、この繋がりを10年後も20年後も切らさず太くしていくことが今後の研修した私の役割だと思っています。初めての海外ということもあり不安もありましたが、この1つの研修で多くの繋がりをもてたことは一番の研修での成果です。そして私の中での南風原への思いや沖縄のこと関心がないことも一度外にでたことで得ることができました。そして3カ国ではホームステイしたこともあり家族をみることが多く全ての国で家族みんな仲良しでした。私はこの研修で家族への感謝という気持ちも気付かせてくれました。この1ヶ月間歓迎してくれた南風原人のみなさま、そしてこのようにとても貴重な機会を与えてくれました、南風原の皆さま、そしてここまで一緒に過ごしてきた家族に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。